



コロナウイルスの影響でイベントがたくさん中止になってるこぼお〜。早く終息してほしいこぼお〜

柳川市マスコットキャラクター「こっほりー」

## 伝統文化の継承が評価される 柳川雛祭り さげもんめぐりで受賞

柳川雛祭り実行委員会の「柳川雛祭り さげもんめぐり」が、一般財団法人地域活性化センター主催の第24回ふるさとイベント大賞で「優秀賞」を受賞しました。また、柳川商工会議所が日本商工会議所主催の2019年度全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞で「きらり特別賞（伝統文化）」を受賞しました。

全国から120件の応募があったふるさとイベント大賞では、おひな様水上パレードなど水郷柳川の特徴を生かしたイベントであること、観光施設や飲食店などの「さげもん処（展示会場）」を鑑賞しながら街歩きをする回遊型イベントであること、市民約2000人以上が掘割清掃に参加していることなどが評価され、大賞、最優秀賞に次ぐ上位入賞を果たしました。

柳川雛祭り実行委員会会長の高橋努武市観光協会会長や副会長の藤木利美子市地域婦人会連絡協議会会長、山田良治柳川商工会議所副会頭が3月5日、金子市長に受賞を報告しました。高橋会長は「地域の伝統文化を26年間、しっかり活動し続けてきたことが評価された。来年は訪日外国人の誘客策を本格化させたい」と意気込みを語りました。



【上】金子市長に受賞を報告した高橋会長たち  
【左下】昨年行われたおひな様水上パレード  
【右下】昨年のきもの日和

## 市民と市が協働で問題の解決を目指す まちづくりのためのプレゼンと報告会を開催

市民協働のまちづくり事業「公開プレゼンテーション・公開報告会」が2月9日、水の郷で開催されました。この事業は、市と市民が対等な立場で協働し、自由な発想や新しい取り組みで、市民サービスの向上や地域課題の解決を目指すというもの。事業を公募し、審査を経て採択された事業に、市が補助金を交付します。

最初に3団体が実施予定の事業を発表。水の会は、柳川の掘割と水文化の調査や視察に来た人に向けた案内用パンフレットの作成、掘割について市民で考えるシンポジウムの開催などを行う「柳川の掘割プライド発見プロジェクト」を発表しました。次に、一般社団法人柳川暮らしつぐ会が、空き家問題に対し、古民家改修のハードルを低くし、活用しやすい環境をつくるため、DIYを用いた「伝統的建築技術を学ぶワークショップ」事業について発表。また、特定非営利活動法人SPERA 森里海・時代を拓くは、柳川の豊かな生物を掘割に取り戻し後世へ引き継ぐため、子どもたちと水辺環境の調査を行うバイオリビング調査や、お堀や有明海の干潟に生息する生物の標本作成、また川下りコースの岸辺に花や緑を植える緑化活動などの「森

各団体がスクリーンを使ってプレゼン



と里と海のつながりの環境教育：掘割と子供たちの未来」事業について発表。発表後の選考委員会による話し合いの結果、今年度から1・2番目の事業が新しく採択されました。

その後、事業報告会が行われ、安東省菴頭彰会による「安東省菴事績伝承事業」と、障がい当事者と考える柳川まちづくり研究会による「障がいがあっても楽しめる観光コース作り事業」が継続事業に採択。また、昨年度終了事業の、有明海塾による「『やながわ有明海水族館』を拠点とした水辺の生きものと環境学習」の事業報告も行われました。

掘割の安全を祈願する関係者



## 掘割の安全を願う 3月1日にお堀開きが催される

隅町の掘割で3月1日、本格的な川下りシーズンの始まりを告げるお堀開きが行われました。時折小雨がぱらつく、あいにくの天気の中、行政や観光関係者など約40人が参加。どんこ舟を並べて設営された水上ステージで掘割の安全を願う神事が行われました。新型コロナウイルスの影響で、恒例の関係者による神事後の川下りパレードは中止。関係者からは「新型コロナウイルスの一刻も早い終息を」と願う声がかげられました。

力強く太鼓を叩くパフォーマンスで観客を魅了



## 体に響く太鼓の音で観客を魅了 カルチャラルふれあい文化事業

カルチャラル柳川ふれあい文化事業実行委員会は、2月16日、市民会館で「DRUM TAO ～ザ・ドラマーズ FINAL～」を催しました。DRUM TAOは世界観客動員数800万人越えの和太鼓演奏グループ。メンバーたちは激しく力強いパチさばきやパフォーマンスと共に、大小さまざまな和太鼓を中心に篠笛や三味線、箏などで美しい旋律を演奏。太鼓の振動を体で感じる迫力のステージで会場は熱気に包まれ、多くの来場者が演奏やパフォーマンスに魅了されました。

大きなボールを追いかける児童たち



## キンボールで健康増進 市ニュースポーツフェスタ

市教育委員会は、2月11日、市民体育館で市ニュースポーツフェスタを開催しました。これは、地域住民の健康増進や参加者の親睦を深めるために毎年行われているもの。キンボールは、直径1.2メートルの大きなボールを床に落とさないように4人で協力し合う競技で、この日は小学生14チーム、大人14チームの195人が参加しました。大会の結果、小学生の部では皿垣小Bが、一般の部では、かまちもん（蒲池校区）が優勝しました。

防火クリアファイルを手渡した平川会長（左から2人目）



## 児童に防火の大切さを伝える 市防災協会が新入学児童へ防火品贈呈

市防災協会（平川實夫会長）は、2月18日、市内19小学校の新入生524人に贈呈する防火クリアファイルを沖教育長に手渡しました。これは、児童の防火教育普及のために毎年贈呈されているもので、今年で38回目。「みんなでまもろうひのようじん」の言葉が書かれたクリアファイルには、地震から身を守る、危ないところで遊ばない、花火は大人と一緒にするなどのメッセージが添えられたイラストが描かれています。贈呈品は、入学式で新入生に渡されます。